

夏場の畜鶏舎の悪臭とハエ対策

福島県畜産試験場
福島県養鶏試験場

入梅から夏にかけて、畜産農家にとって頭の痛いのは、悪臭とハエの問題です。基本的な対策を丁寧にかつ徹底して実施し、病気予防を行うとともに、地域との共存を図っていく必要があります。

1 悪臭対策

●牛 舎

牛糞は、豚や鶏に比べ悪臭成分は少ないが、特有の臭いがあります。牛舎内の臭気は、家畜は勿論のこと人の健康にも関係するので、充満しないように換気に注意をしましょう。臭気を出さないためには、清掃をキチンとし、ふん尿を速やかに牛舎外に搬出することが基本です。一般には、牛舎環境や清掃管理の良好なところは、臭気は少なく、不良な牛舎ほど臭気は強い傾向があります。

●豚 舎

豚舎における臭気発生防止策としての基本は、①健康な豚の管理と清掃 ②糞尿の早期分離と搬出 ③おがくず等の敷き料による水分及び臭気成分の吸着 ④豚舎内の通風及び換気による臭気の抑制 が挙げられます。

また、微生物資材等を、給与したり堆肥へ散布することにより、臭気の原因を防止することができます。

●鶏 舎

鶏は、他の家畜と違い、糞と尿と一緒に排泄します。糞中の酵素（ウレアーゼ）が尿中の尿酸を一気にアンモニアに変化させることが臭いの原因です。このため、硫化水素、揮発性脂肪酸など強烈な悪臭物質がでる嫌気発酵にしないで無臭な硝酸塩に変えることのできる好気発酵にすることが必要です。この場合攪拌、通気、水分60%前後、発酵温度60℃以上等がポイントです。また、許容範囲を超える場合の悪臭対策は、悪臭物質を集めて脱臭する必要があります。「水洗脱臭」と「微生物脱臭」を組み合わせる方式が有効と考えています。（県養鶏試験場で試験中）

2 ハエ対策

夏期のハエ対策としては、ハエの発生を抑えることと幼虫・成虫そのものを駆除する方法が中心となります。

ハエは、2週間で卵からウジ、さなぎを経て成虫になる。1匹の成虫が1度に50～100個の卵を産み、このうち55%位が成虫になります。

まず、ハエの発生防止対策は、堆肥場を覆うこと、糞を乾燥すること、水たまりを無くすこと等で、ハエの産卵場所をなくすことです。

また、幼虫・成虫駆除は、成虫は飛び回るの、幼虫の段階で駆除するのがポイント。脱皮阻害剤を、産卵場所である糞の堆積場やこぼれた餌や鶏舎床の糞に散布。また、飛び回るハエの駆除は、誘引剤で殺虫液に誘うのが効果的。また、幼虫駆除、成虫への薬剤散布を併用し、時期により適正濃度に変えることも効果的です。